

国内のジェネリック医薬品市場を調査

2014年に10年比33%増の5,865億円、医療用医薬品市場の6.8%

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済（東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811）は、外資系医薬品メーカーの本格参入、国内外の大手新薬系メーカーや異業種からの参入が目立つ国内のジェネリック医薬品（ここでは診療報酬点数表における後発医薬品に属するものを対象）市場を調査した。その調査結果を報告書「2011-2012 ジェネリック医薬品・長期収載品データブック No.2 市場編」にまとめた。

この報告書ではジェネリック医薬品の市場を調査・分析するとともに、ジェネリック医薬品の使用を更に促進するため2012年4月も薬価の追加引き下げが予定されている長期収載医薬品の市場についても調査・分析した。

特許が切れた先発品で、ジェネリック医薬品のある、厚生労働省が定めた医薬品。

<調査結果の概要>

	2010年	2014年予測		
			2010年比	構成比
医療用医薬品	7兆6,348億円	8兆6,009億円	112.7%	100.0%
ジェネリック医薬品	4,401億円	5,865億円	133.3%	6.8%
長期収載医薬品	2兆3,390億円	2兆4,833億円	106.2%	28.9%

注1：医療用医薬品はジェネリック医薬品がない漢方製剤を含んでいない

注2：ジェネリック医薬品市場と長期収載医薬品市場は、医療用医薬品市場の内数

注3：構成比は医療用医薬品市場における2014年予測のジェネリック医薬品市場、長期収載医薬品市場のウエイト

ジェネリック医薬品市場

市場は2010年に前年比11.1%増の4,401億円、2011年に同10.6%増の4,868億円が見込まれる。これまではDPC（診断群分類包括評価）導入病院を中心にジェネリック医薬品へ切り替えられてきたが、2010年4月に後発品調剤体制加算が改定されたことにより調剤薬局でも切り替えが進んでいる。薬効領域別にみると循環器用剤や上部消化管疾患治療剤で大きな売上実績を持つ大型製品のジェネリック医薬品が発売されたことからジェネリック医薬品の伸びが顕著となっている。また、降圧剤や糖尿病治療剤などが高齢化や生活習慣病患者の増加により、特に経口剤を中心に伸びている。さらに、高薬価の薬剤が多い抗がん剤や抗生物質、抗ウイルス剤、体内診断薬などは、DPC導入病院での切り替えの進展で伸びている。

2011年11月に抗認知症剤のトップブランド「アリセプト」（エーザイ）や高脂血症治療剤のトップブランド「リピトール」（アステラス製薬）など、大型製品のジェネリック医薬品が発売され、また、降圧剤では現在処方を中心となっているARB（アンジオテンシンII受容体拮抗剤）の「プロプレス」（武田薬品工業）や「ディオバン」（ノバルティス ファーマ）といった上位2ブランドのジェネリック医薬品が近く発売されると見られるため、今後も市場は拡大していくと予想される。

主な薬効領域別ジェネリック医薬品市場

	2010年	2014年予測	2010年比
上部消化管疾患治療剤	378億円	600億円	158.7%
抗がん剤	373億円	550億円	147.5%
抗認知症剤	15億円	165億円	11倍

上部消化管疾患治療剤は消化性潰瘍（胃潰瘍、十二指腸潰瘍、吻合部潰瘍）胃炎、十二指腸炎、胃食道逆流症（GERD）、機能性上部消化管症状（FD）、ヘリコバクター・ピロリの除菌治療薬剤を対象としている。

2010年11月に「パリエット」（エーザイ）のジェネリック医薬品が発売されたことで、上位5ブランドのジェネリック医薬品が揃った。これにより2011年の市場は前年比29.4%増の489億円、上部消化管疾患治療剤市場の11.8%を占めるまでに拡大すると見込まれる。

健胃消化薬・胃腸機能調整薬のトップブランド「ガスマチン」（大日本住友製薬）のジェネリック医薬品の発売や、将来的には用法や適応症拡大の承認を得ると見られることから、市場は今後も順調な拡大が予想される。

ジェネリック医薬品の適応は承認されていない。

抗がん剤は分子標的治療剤以外でジェネリック医薬品が販売されている。抗がん剤は治療成果を左右するという医師や薬剤師の意識が高かったことから他の薬効領域に比べるとジェネリック医薬品の浸透が遅れていた。しかし、現在はジェネリック医薬品に対する医師や薬剤師の意識は変化しており、高薬価の薬剤が多いことからDPC病院を中心に切り替えが進んでいる。

トップシェアは日本化薬である。豊富な製品をラインアップし、自社新薬との併用療法をプロモーションし、実績を上げている。ヤクルト本社や大鵬薬品工業も製品数は少ないが、同様な展開で実績を上げている。

今後は「ハーセプチン」「リツキサン」（いずれも中外製薬）「グラン」（協和発酵キリン）のバイオシミラーの発売が予想されるため市場は順調に拡大すると見られる。

バイオシミラー（バイオ後続品）とはバイオテクノロジーを応用して生産された医薬品（バイオ医薬品）と同等の品質と安全性、有効性を有する医薬品である（バイオ医薬品におけるジェネリック医薬品のようなもの）。

抗認知症剤は2011年11月にトップブランド「アリセプト」（エーザイ）のジェネリック医薬品が発売されたことで、今後は急激な市場拡大が期待される。

長期収載医薬品市場

長期収載医薬品は剤形追加や適応拡大、継続的な疾患啓発展開が功を奏し、一部では堅調な推移を維持している製品も見られるが、大部分は薬価引き下げやジェネリック医薬品の影響を受け縮小から免れない状況にある。市場は大型製品の特許切れでその実績が加わり2012年に前年比10%程度拡大となるが、2013年以降は縮小すると予測される。但し、減少に転じても2014年は2010年実績を上回っていると予想される。

<注目市場>

バイオシミラー

2010年	2014年予測	2010年比
10億円	60億円	600.0%

2009年9月に国内初となるヒト成長ホルモン剤「ソマトロピンBS「サンド」」（サンド）が発売され、2010年5月にはエリスロポエチン製剤「エポエチンアルファ「JCR」」（キッセイ薬品工業）が発売された。バイオシミラーは現在その2剤のみで、市場はまだ小規模である。2014年の市場は2010年比6倍の60億円が予測されるが、それでもジェネリック医薬品市場の僅か1%である。

2015年以降、抗がん剤「ハーセプチン」（中外製薬）抗リウマチ剤「レミケード」（田辺三菱製薬）CSF製剤「グラン」（協和発酵キリン）のバイオシミラーが投入されれば、市場は100億円規模に達すると予想される。また、エリスロポエチン製剤で参入を予定しているメーカーや、不妊症治療剤の開発を進めているところもある。さらに、新たに別の抗がん剤や感染症領域の開発に乗り出そうとしているところもあり、更なる市場拡大が期待される。

コロニー刺激因子

< 調査対象薬効領域 >

降圧剤、その他循環器用剤、抗生物質、抗ウイルス剤、抗真菌剤、統合失調症治療剤、その他精神神経疾患治療剤、上部消化管疾患治療剤、その他消化器用剤、抗アレルギー剤、喘息・COPD治療剤、その他呼吸器疾患治療剤、高脂血症治療剤、糖尿病治療剤、痛風・高尿酸血症治療剤、解熱消炎鎮痛剤（外用剤含む）、抗がん剤、体内診断薬、麻酔・筋弛緩剤、女性疾患治療剤、変形性関節症治療剤・抗リウマチ剤、骨粗鬆症治療剤、消毒剤（含嗽剤含む）・褥瘡治療剤、泌尿器疾患治療剤・腎疾患治療剤、栄養剤・ビタミン剤・輸液・生理食塩水、眼科用剤、ヒト成長ホルモン剤、エリスロポエチン製剤、抗認知症剤

< 調査方法 >

富士経済専門調査員による参入企業及び関連企業・団体等へのヒアリング及び関連文献調査、社内データベースを併用

< 調査期間 >

2011年11月～2012年1月

以上

資料タイトル : 「2011 - 2012ジェネリック医薬品・長期収載品データブック No.2 市場編」
体 裁 : A4判 337頁
価 格 : 140,000円（税込み147,000円）
書籍・電子版セット : 160,000円（税込み168,000円）
調査・編集 : 富士経済 東京マーケティング本部 第二事業部
TEL:03-3664-5831 FAX:03-3661-9778
発 行 所 : 株式会社 富士経済
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2 - 5 F・Kビル
TEL03-3664-5811（代）FAX 03-3661-0165 e-mail:info@fuji-keizai.co.jp
この情報はホームページでもご覧いただけます。
URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/> <https://www.fuji-keizai.co.jp/>